大胡西北部遺跡群

横沢向山B地点遺跡

「県営担い手育成ほ場整備事業大胡西北部地区」に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書　―第６集―

２００１

群馬県勢多郡大胡町教育委員会

序　　文

埋蔵文化財発掘調査報告書『横沢向山Ｂ地点遺跡』をお届けします。

勢多郡大胡町は赤城山の南麓に位置します。本遺跡ではここで営まれた生活の一断片が調査され、当町における平安時代の様相を理解する上で、貴重な資料を得ることができました。また、本遺跡の周辺には、拠点的集落のひとつと推察される堀越中道遺跡を始め、数多くの遺跡が確認されています。これらの埋蔵文化財調査の成果によって、郷土の歴史が解明されることが期待されます。

最後になりましたが、ご協力頂きました関係者各位と、寒風の中発掘作業に従事された作業員の方々に感謝申し上げます。

大胡町教育委員会教育長　松　本　浩　一

例　　言

1　本書は、「県営担い手育成ほ場整備事業大胡西北部地区」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査地区は、群馬県勢多郡大胡町横沢字向山404－1番地他に所在する。

3　遺跡の呼称は大字小字名を併記し、且つ、平成7年度調査の「横沢向山遺跡」と同一地区に位置することから、前者を（A地点）とし、本遺跡を「横沢向山B地点遺跡」とした。

4　発掘調査は大胡町教育委員会が直営で行い、平成12年12月2日から12月16日まで実施した。調査は藤坂和延と水谷貴之（大胡町教育委員会埋蔵文化財調査補助員）が担当した。

5　発掘調査によって出土した遺物は全て大胡町教育委員会文化財事務所で収蔵・管理している。

6　本書の作成は、執筆を山下歳信・水谷が分担して行い、編集は山下監修のもと、水谷が担当した。

7　発掘調査にあたり、前橋土地改良事務所の協力を得た。

8　遺物の写真撮影は小黒茂男氏による。

9　発掘調査・整理作業員は以下のとおりである。（敬称略・五十音順）

荒井　愛子　　五十嵐文江　　石井　よね　　石川　節子　　小沢チヅエ　　北爪　珠美
島岡　政雄　　鈴木久美子　　須田　章子　　田村志づ江　　勅使川原幸枝　内藤　典子
萩原　秀子　　山下　雅江　　若林　俊次

凡　　例

1．第1図は建設省国土地理院発行の5万分の1の地形図「前橋」に加筆して使用した。

2．第2図は大胡町役場発行の2500分の1原形図に加筆して使用した。

3．本書挿図の縮尺は以下のとおりである。

（遺構）全体図1／400　住居跡1／60　カマド1／30　（遺物）1／3・1／4

4．遺構図中の断面基準線は標高で示した。また、N方位は座標北である。

5．胎土中に繊維を含む土器には、断面に「●」を付した。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次・図版目次

Ⅰ　発掘調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と概要 …… 1
Ⅲ　検出された遺構と遺物 …… 2
　1・1号竪穴住居跡 …… 2
　2・その他の遺構 …… 6
　3・包含層・遺構外出土遺物 …… 6
Ⅳ　調査の成果と今後の課題 …… 6
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第1図　横沢向山B地点遺跡と周辺の遺跡 …… 1
第2図　横沢向山B地点遺跡の調査区 …… 1
第3図　調査区全体図 …… 2
第4図　基本土層 …… 2
第5図　1号竪穴住居跡 …… 3
第6図　1号竪穴住居跡出土遺物(1) …… 4
第7図　1号竪穴住居跡出土遺物(2) …… 5
第8図　包含層・遺構外出土遺物(1) …… 7
第9図　包含層・遺構外出土遺物(2) …… 8

図版目次

PL1　1・調査区近景　2・1号竪穴住居跡　3・貯蔵穴　4・カマド
　　5・1号竪穴住居跡遺物出土状況
PL2　1号竪穴住居跡出土遺物
PL3　包含層・遺構外出土遺物

Ⅰ・発掘調査に至る経緯

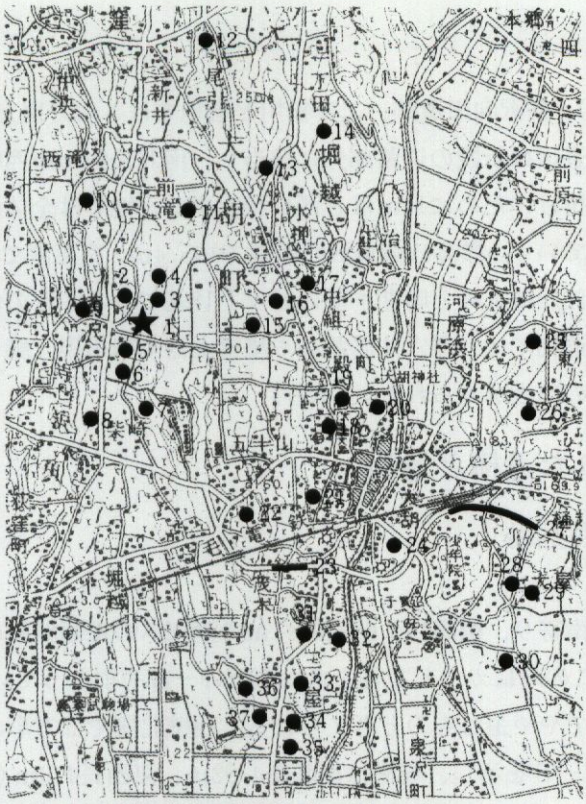
平成４年から開始された県営担い手育成ほ場整備事業大胡西北部地区の事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成８年に完了し、翌９年度の報告書刊行で全ての事業を完了していました。

平成12年度は本事業地区は最終年になり、事業を完了させるにあたり町当局が以前から説得していた隣接区域の一部（本遺跡地区）が事業地区に加入の同意が得られた。しかし、当教育委員会と町当局・前橋土地改良事務所との埋蔵文化財に係わる内部調整に不備があり、一部工事着工後に現状を確認した町教育委員会は工事を中断させ協議を開始した。

当教育委員会は、同地が過去に当事業地区で発掘調査されている隣接地であることから試掘調査を行い、縄文時代～平安時代の住居跡を確認した。この結果を踏まえて前橋土地改良事務所と遺構の破壊が予想される新設道路部分に対して発掘調査を実施し、現状保存を図る地域に対しては、慎重工事により遺跡の破壊がないように充分注意することで合意した。（山下）

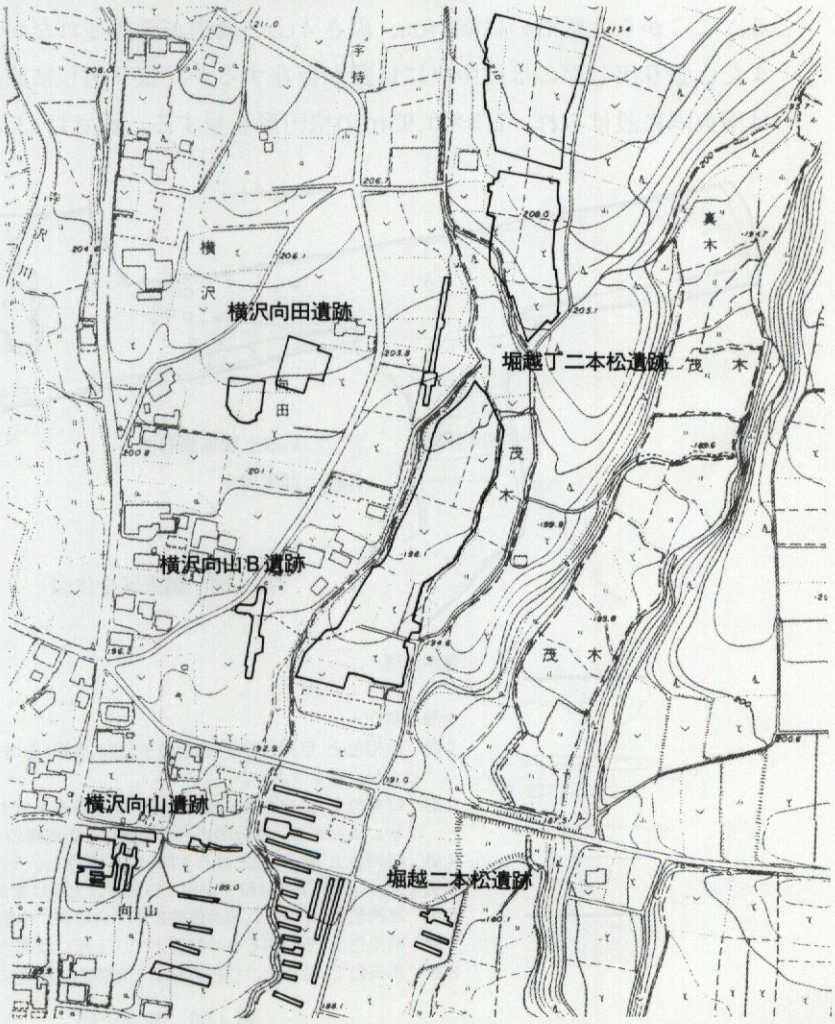
Ⅱ・遺跡の位置と概要

本遺跡は上毛電鉄大胡駅の北西約１km、勢多郡大胡町横沢字向山地内に所在し、寺沢川左岸の台地上に位置する。同じ台地上に、横



1・横沢向山Ｂ地点遺跡
2・横沢向田遺跡
3・堀越丁二本松遺跡Ⅰ区
4・堀越丁二本松遺跡Ⅱ区
5・横沢向山遺跡（Ａ地点）
6・柴崎古墳群
7・茂木二本松遺跡
8・柴崎遺跡群
9・横沢城
10・横沢新屋敷遺跡
11・堀越芝山遺跡
12・西尾引遺跡
13・堀越西一丁田遺跡
14・甲諏訪遺跡
15・新畑Ｃ地点遺跡
16・堀越中道遺跡
17・堀越乙関替戸遺跡
18・殿町遺跡
19・養林寺館址
20・大胡城跡（県指定）
21・天神遺跡
22・堀越古墳（県指定）
23・天神風呂遺跡
24・中宮関遺跡
25・日光道東遺跡
26・浅見遺跡
27・上大屋樋越地区遺跡群
28・上大屋中組遺跡
29・上大屋天王山遺跡
30・上大屋下組遺跡
31・西小路遺跡
32・上ノ山遺跡
33・小林遺跡
34・山神遺跡
35・大畑遺跡
36・稲荷窪Ｂ地点遺跡
37・稲荷窪Ａ地点遺跡

第１図　横沢向山Ｂ地点遺跡と周辺の遺跡



第２図　横沢向山Ｂ地点遺跡の調査区

沢向山（A地点）・横沢向田遺跡、二本松川と低地をはさんだ東方の台地には堀越丁二本松・茂木二本松遺跡がある。調査区は新設の道路部分に該当し、南北長64m東西幅５ｍである。西側の北寄りでは、現況の道路への取付けのために11mほど西に突出する。地形は全体的に南東方向への緩慢な傾斜を示し、低地へと移行していく。標高は調査区北西隅で195.4m、南東隅では194.5mを計る。検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡１軒と時期不明のピット18基である。その他、縄文時代前期の包含層、風倒木痕が確認された。遺物では、竪穴住居跡から墨書土器や転用硯、脚台付甕などが出土した。また、遺構外からも墨書土器の出土がみられた。（水谷）

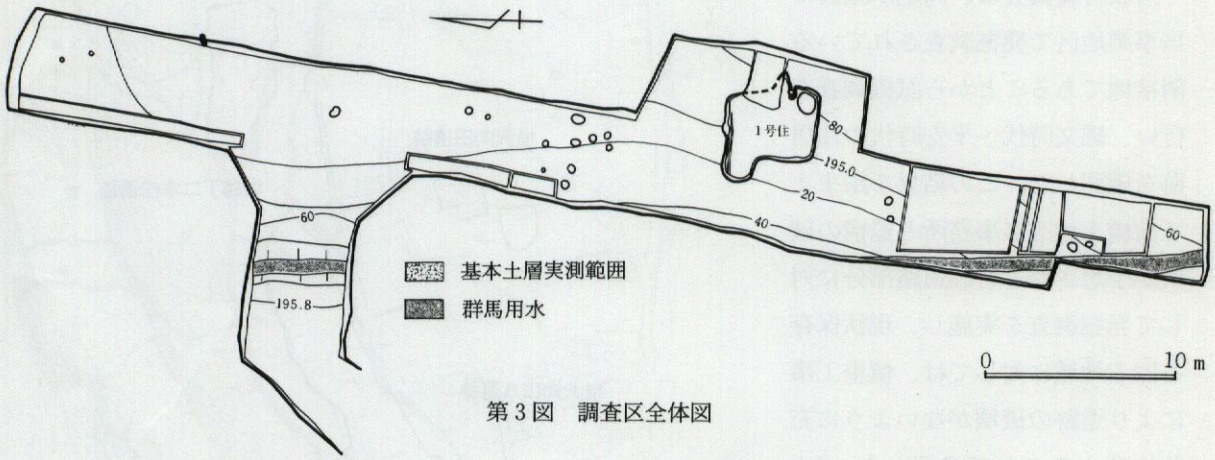
Ⅲ・検出された遺構と遺物

１・１号竪穴住居跡

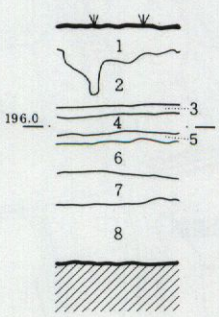
（遺構）

調査区中央の南寄り、標高194.6～195.1mの南東への緩傾斜面に検出された。試掘トレンチによって確認されたが、この時にカマド左袖を含む東壁の一部を損なっている。平面形は南北に長い隅丸方形で、東壁カマド付近でやや歪むものと考えられる。西壁北側では方形の張り出しを持つ。

主軸はＥ－８°－Ｓを示し、規模は南北長4.92m、東西長4.0m（張り出しを含めず）を計る。壁高は20cm～54cmが残り、北西側が高く、南東側が低くなっている。張り出し部は最大幅1.72mで1.4m程突出する。ここから北壁沿いに幅24cm、深さ４cmの周溝が確認されたが、他の壁際からは検出されなかった。また、張り出し部のほぼ中央には礫が存在するが、張り出しに直接関わるものかは不明である。貯蔵穴は南東隅に設けられ、1.3×0.92mの楕円形を呈する。深さは33.8cmであった。



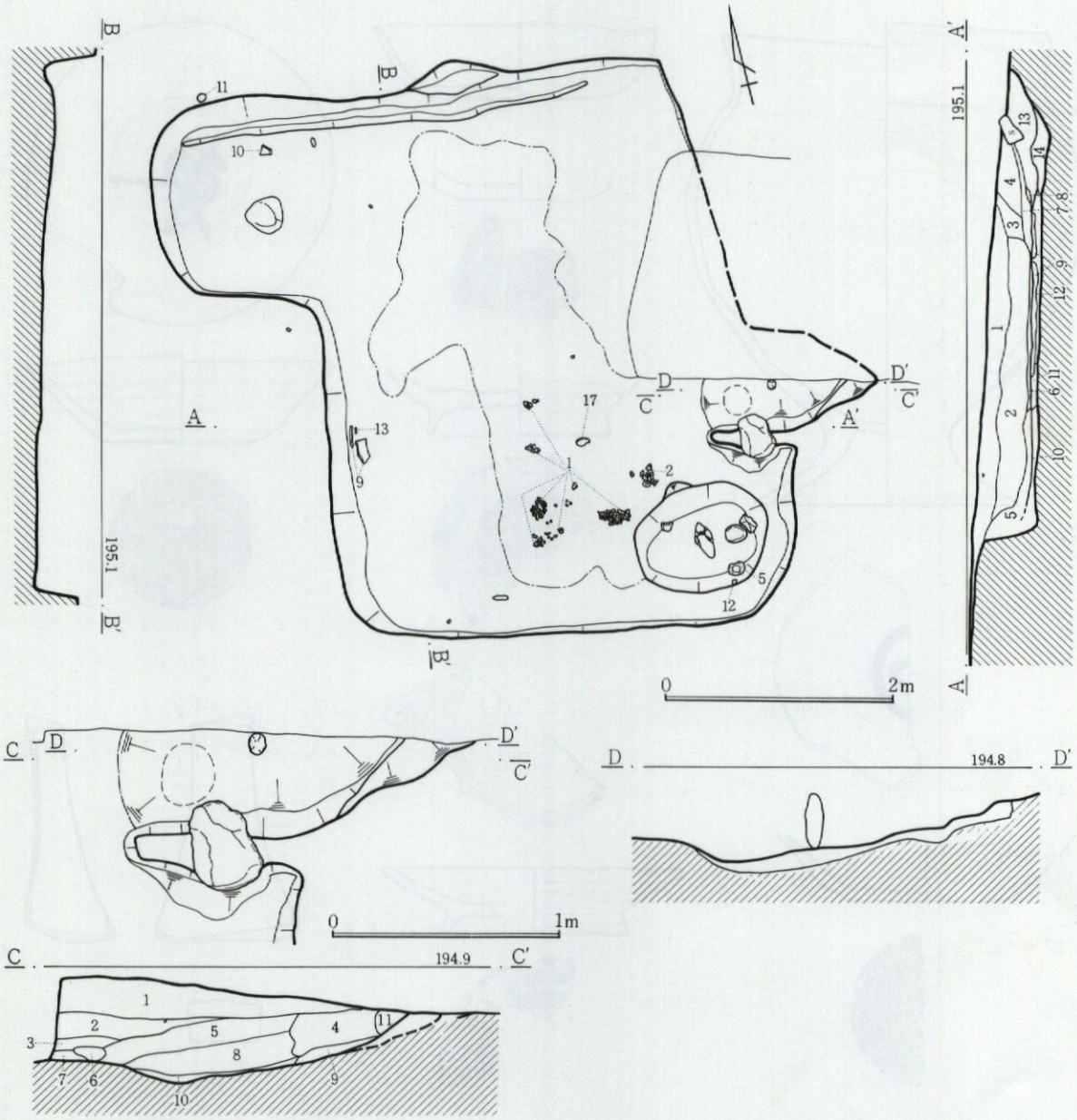
第３図　調査区全体図



基本土層

1層　耕作土
2層　暗褐色土 橙褐色粒子・白色粒子（共に微細）を均一に多く含み、大きめの白色軽石をまばらに含む。締まりあり。
3層　暗褐色土 鉄分を多く含むため、やや赤みを呈する。白色軽石を少量含み、鉄分はややブロック状にまとまる。部分的に水成堆積状の小円礫のまとまりがみられる。
4層　暗褐色土 鉄分・白色軽石を均一に少量含む。やや締まりあり。
5層　As－Ｂ層 下部は粒子が粗く白灰色、上部は紫がかった砂質の微粒子。
6層　黒褐色土 Hr－FP を全体的に多く含むが、中位に集中気味である。粘質あり。
7層　暗褐色土 やや明るめの粘質土で、上部には部分的に少量の FP が混入する。
8層　黒褐色土 粘質土。白色微粒子を全体的に粗密に含む。

第４図　基本土層



カマドセクション(C－C')

1層　FP・焼土粒を均質に多く含む黒褐色土。

2層　1層と比べてソフトな黒褐色土。FP・焼土粒がやや少ない。

3層　FP・焼土粒が微量に含まれる黒褐色土。

4層　焼土ブロックが多量に含まれる暗褐色土。

5層　焼土粒を均質に含み、FP・炭化物を少量含む暗褐色土。8層と比べて、焼土は少ない

6層　FP・焼土粒を微量に含む暗褐色土。黄白色粘土ブロックが混入する。

7層　焼土粒・FPを微量に含む黒褐色土。小指頭ほどのロームブロックが混入。

8層　小指頭ほどの焼土を均質に多く含み、FPを微量に含む暗褐色土。やや粘性あり。

9層　焼土粒・ロームブロックを含む黒褐色土。

10層　焼土粒・FPを少量含む。黒褐色土。粘性あり。

11層　橙褐色を呈する焼土ブロック。

1号住居セクション(A－A')

1層　As－B・FPを多く含み、全体的に焼土粒を少量含む黒褐色土。締まり強い。

2層　黒褐色土。FPを多く含むが、1層よりは少なく締まりも弱い。微量の焼土、炭化物を含む。

3層　焼土ブロック、FPを含む暗褐色土。2層に酷似するが焼土量やや多い。

4層　焼土ブロック、FPを多く含む黒褐色土。

5層　FPを少量、やや大きめで暗いロームブロックを含む暗褐色土。

6層　FP・ロームブロックを共に微量に含む暗褐色土。

7層　ロームブロック・焼土・FPを含む。黒褐色土。ロームブロックは暗色でまばらに混入する。3層よりもやや明るい。

8層　全体的に焼土を含み、FPと黄白色粘土を少量含む黒褐色土。

9層　貼床。ローム土主体で黒褐色土が混在する。

10層　褐色土でソフトなローム土。9層よりも暗く暗褐色土が混入する。粘性あり。

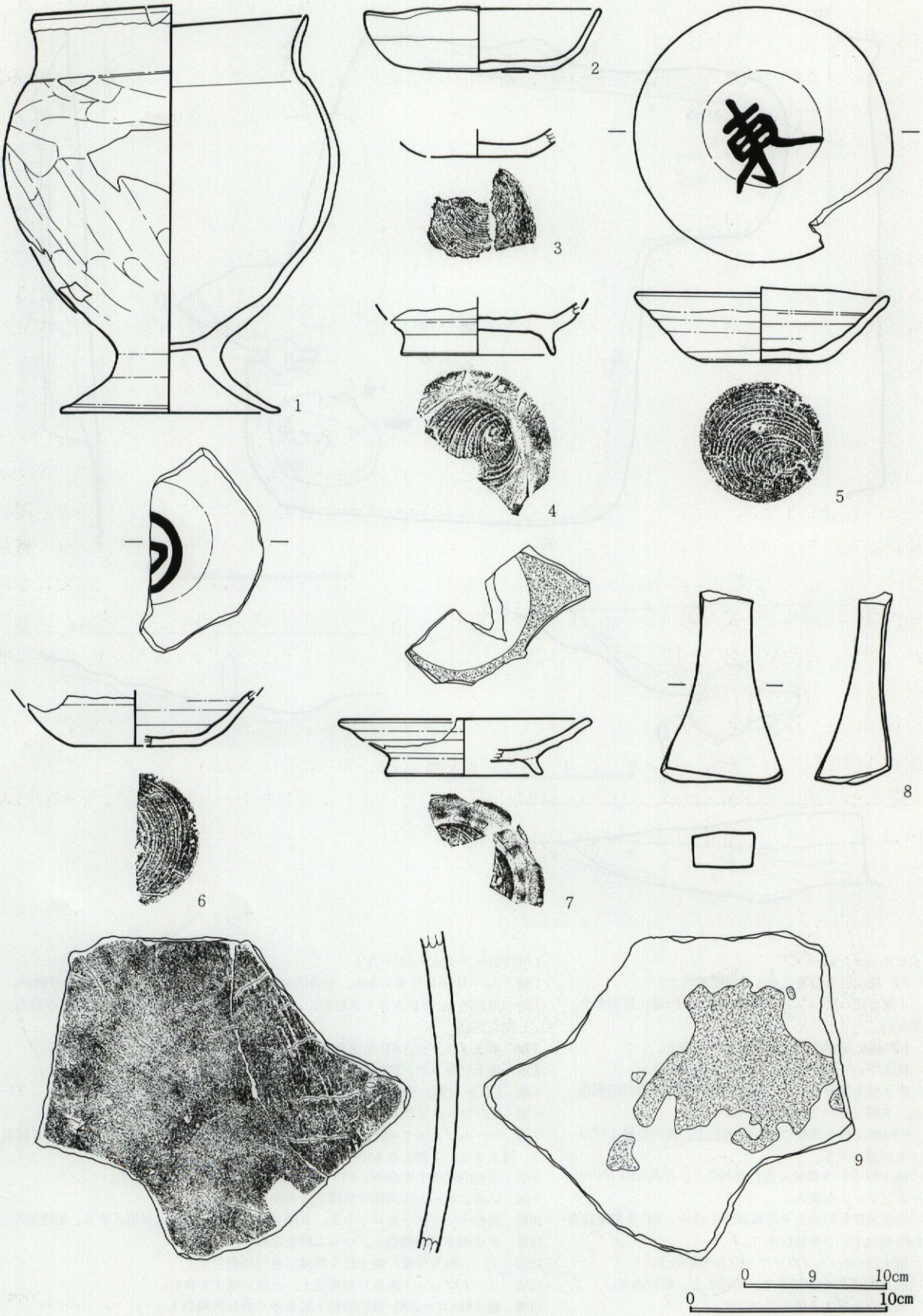
11層　やや明るい暗褐色土。ローム粒を含む。

12層　ローム粒を少量、焼土粒を微量に含む黒褐色土。

13層　ロームブロックを含む黒褐色土。上位に焼土を含む。

14層　焼土粒・ローム粒・黄白色粘土粒を多く含む黒褐色土。

第5図　1号竪穴住居跡



第６図　１号竪穴住居跡出土遺物(1)

床面はほぼ平坦で南東方向に緩く傾斜する。カマド手前から住居址中央付近にかけて貼床が施され、堅緻面となる。柱穴は検出されなかった。

カマドは黄白色粘土で構築され、東壁の中央南寄りに位置する。焚口から煙出部までは1.42mを計る。右袖上にはやや浮いた状態で礫がのる。カマド内部からは、長軸24.8cmの柱状の河原石が直立状態で出土し、支脚として使用されたもの考えられる。

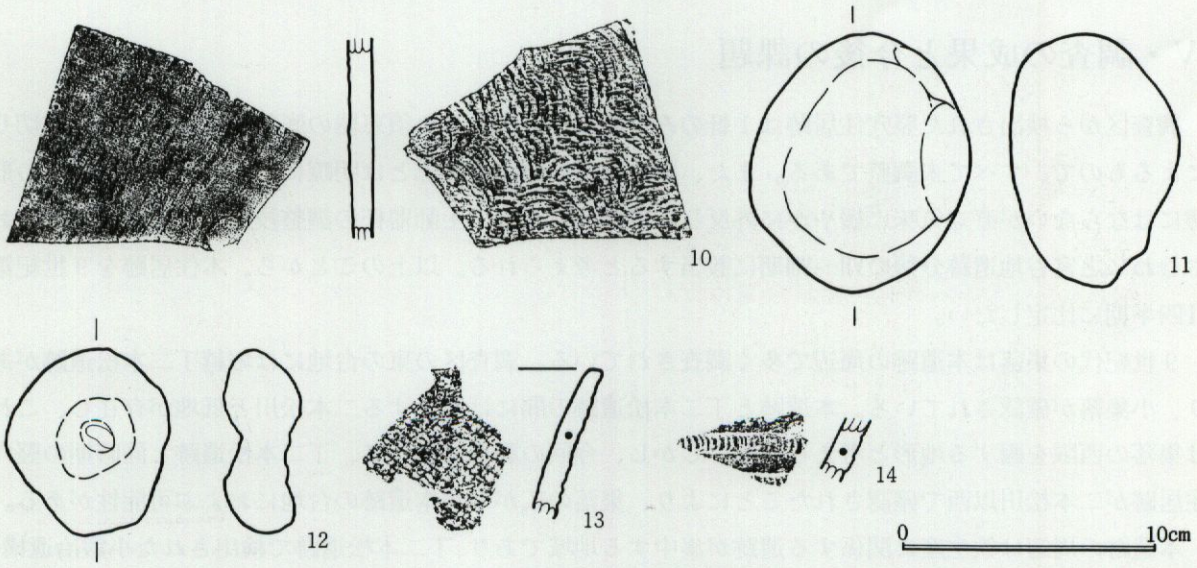
（遺物）

1は土師器の脚台付甕でカマド前面の床面上に集中して出土した。口縁部は直立気味に立上がり緩く外反する。最大径を胴部上位に持つ。口径13.9cm・胴部最大径17.3cm・脚台径11.5cm・高さ21.1cmである。2は土師器の坏。床面上より正位で押し潰れた状態で出土した。口径12.1cm・底径8.2cm・高さ3.4cm。底部は平底で手持ちヘラケズリが施される。口縁部はヨコナデで、体部下半は無調整で指頭痕がみられる。内面には油煙状の付着物が残る。5は貯蔵穴から出土した須恵器坏である。口径12.9cm・底径6.4cm・高さ3.9cm。底部回転糸切り未調整。内面底に「東」が墨書される。

3・4・6～10・13・14は住居覆土からの出土である。3は土師器坏底部で回転糸切り未調整。4は須恵器高台付碗の底部で高台径7.8cmを計る。内面にロクロ目が残る。6は須恵器坏で、内面底に墨書が残るが判読できない。丸の中に一字を書くものであろうか。7は須恵器高台付坏である。内面の色調が輪状に異なることから、同様の高台付き製品を重ね焼きした結果と考えられる。復元口径12.8cm・高さ2.9cmを計る。8は流紋岩製の砥石。撥形を呈し、長軸方向の4面を使用している。また、小口面にも若干の使用痕が残る。長さ10.0cm・最大幅6.3cm・重量185g。9は須恵器甕の胴部片で西壁際より出土した。内面には明瞭な磨面が認められ、墨痕が残ることから転用硯と判断した。10は須恵器甕片。外面平行叩き目、内面には青海波の当て目が残る。

11～14は包含層からの流れ込みと考えられる。11は住居外北壁縁辺から出土した磨石、12は貯蔵穴上面から出土の凹石である。13・14は縄文土器片で前期の所産。胎土に繊維を含む。

その他、図示しなかったが、少量の鉄滓が出土している。ほとんどが覆土からの出土であるが17のみ床面から出土した。重量445g。



第7図　1号竪穴住居跡出土遺物(2)

2・その他の遺構

時期不明の小ピットが18基確認された。調査区中央に集中するが、明確な配列はみられず、規模もばらつく。ピット内からの出土遺物は皆無に近く、土師器・須恵器の小破片が出土したのみである。

3・包含層・遺構外出土遺物

1～35は包含層からの出土で、前期中葉の黒浜・有尾式期から後葉の諸磯b式期、中期後葉の加曽利E式期の土器片である。

1～26は黒浜・有尾式期の所産である。1～12は半載竹管によって平行沈線内に爪形文を充塡し口縁部文様とする。10・11にみられるように菱形文を意匠するものであろう。1・3～6・12は口縁部破片で5以外は波状を呈する。口端が平坦でやや内傾するものと、丸みを持つものがあり、5・6は棒状施文具により口端にキザミを施す。13・14は平行沈線内に爪形文を充塡し、これによって胴部文様とを区画する。地文は単節RL。15～23は口縁部から胴部の破片。16・21は単節RLを施し、15・19・20・23は羽状縄文を施す。17・22は同一個体と考えられる。17は平口縁、22は胴部の破片である。地文は太さの違う2種類の無節RとLで羽状とする。24～26は底部片。24はやや上げ底に、25・26は平底になると考えられる。

27～31は諸磯b式期の所産である。27・28は沈線文系の土器片。29は横位に刺突文を巡らせ、屈曲部にはキザミが施される。30・31には浮線文系の土器片。30は3条1組の浮線にキザミが施される。31は僅かに隆起した浮線上に矢羽状のキザミを施す。

32は中期後葉の加曽利E式期の口縁部破片。

33は輝石安山岩の磨石で先端に敲打痕がみられる。34は輝石安山岩の凹石、35は雲母・石英片岩の棒状石器である。先端部が若干擦れている。長さ10.6cm、幅2.5cm、重量55g。

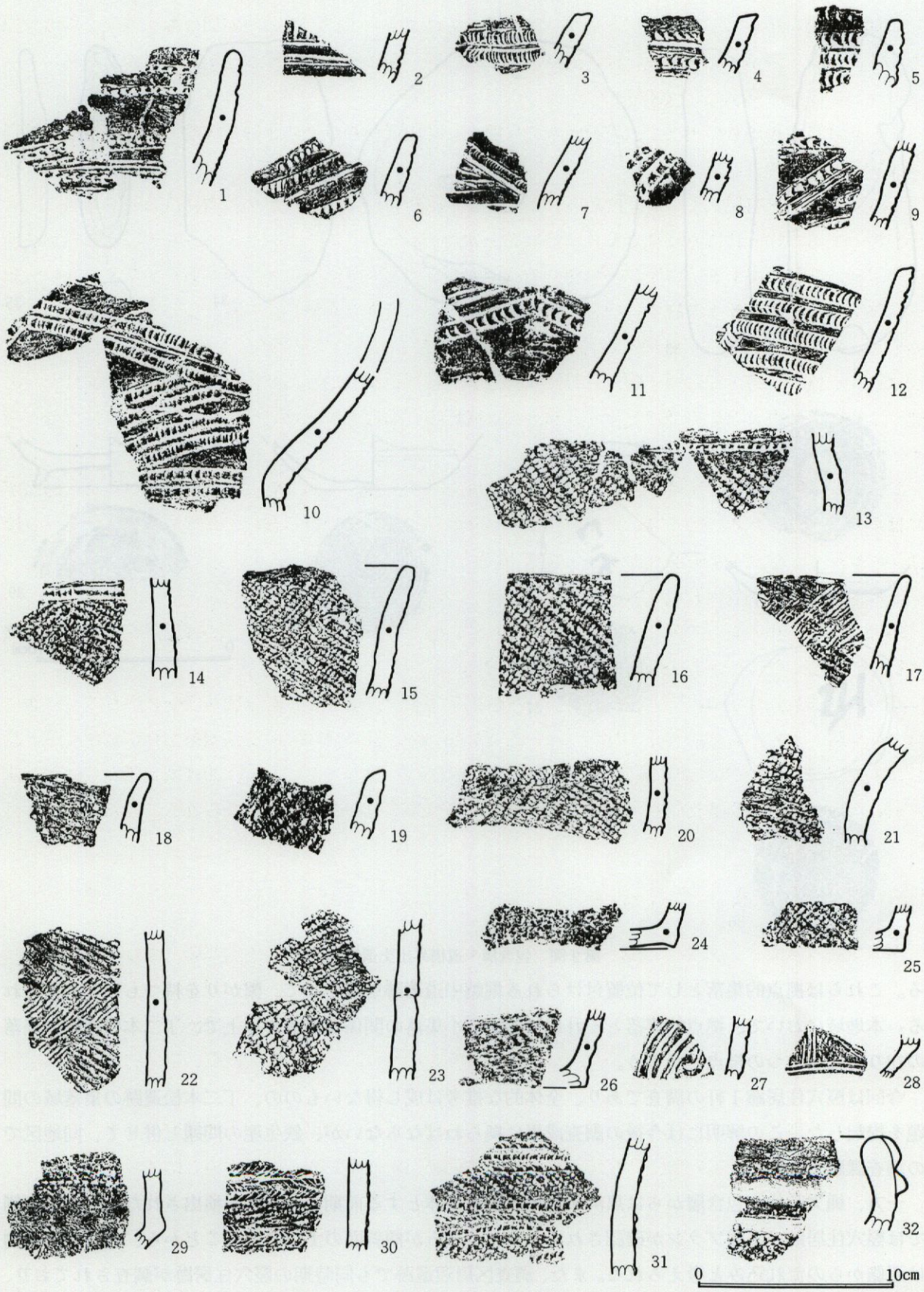
36～39は遺構外からの出土である。36・37は酸化焔焼成の坏底部片。36は底部回転糸切りで、内面にはロクロ目が残る。底部に「石」が墨書される。底径6.8cm。37は底部破片で回転糸切りが施される。底部に「加」が墨書される。38は須恵器坏で底部回転糸切り未調整。底径6.2cm。39は須恵器高台付碗。器内面には重ね焼きの痕跡が残り、内外表面と胎土中には黒斑状の発泡が多くみられる。回転糸切り後付け高台。高台径7.6cm。(水谷)

Ⅳ・調査の成果と今後の課題

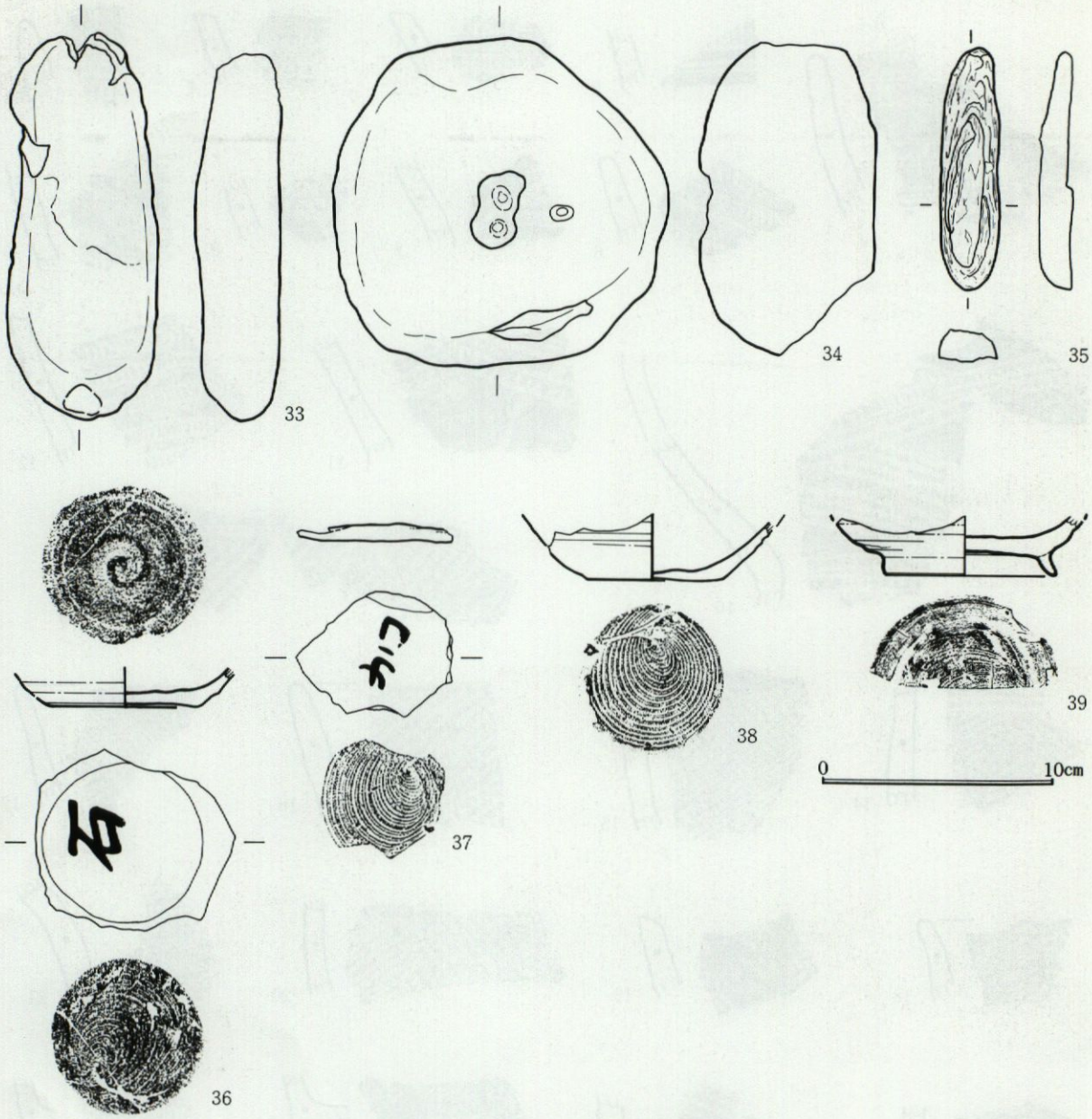
調査区から検出された竪穴住居跡は1軒のみであった。出土した須恵器の底部切り離しは回転糸切りによるもので、すべて未調整である。また、脚台付甕の頸部は胴部とは明瞭に画され、「コ」の字状の形態にはならないが直立気味に緩やかに外反して口縁部に至る。土師器杯の調整技法などを併せると、おおむね二之宮谷地遺跡分類のⅦ～Ⅷ期に該当すると考えられる。以上のことから、本住居跡を9世紀第Ⅱ四半期に比定したい。

9世紀代の集落は本遺跡の周辺で多く調査されている。調査区の東の台地には堀越丁二本松遺跡があり、小集落が確認されている。本遺跡と丁二本松遺跡の間には南流する二本松川と低地が存在し、これは集落の西限を画する地形と考えられた。しかし、今回の調査によって、丁二本松遺跡と同時期の竪穴住居跡が二本松川以西で確認されたことにより、集落の広がりが本遺跡の台地におよぶ可能性がある。

本遺跡の周辺は鉄生産に関係する遺跡が集中する地域であり、丁二本松遺跡で検出された小鍛冶遺構、乙西尾引遺跡からの製鉄炉・炭窯などに代表される。本竪穴住居跡からも少量ながら鉄滓が出土してい



第８図　包含層・遺構外出土遺物(1)



第９図　包含層・遺構外出土遺物(2)

る。これらは拠点的集落として位置付けられる堀越中道遺跡を核として、繋がりを持つものと考えられる。本地域において、拠点的集落とそれに付随する小集落の関係を理解する上で、丁二本松遺跡の集落の在り方はひとつの視点となろう。

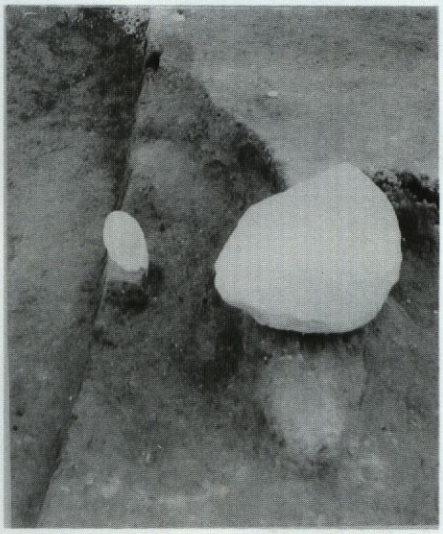
今回は竪穴住居跡１軒の調査であり、全体的な推考は成し得ないものの、丁二本松遺跡の集落域の問題を提起した。この解明には今後の調査成果に拠らねばならないが、鉄生産の問題と併せて、同地区での調査課題となった。

一方、縄文時代の包含層からは黒浜・有尾式期を主体とする前期の土器片が検出された。調査区西側では竪穴住居跡の平面プランが確認されており、こちらが傾斜面の上位であることから、包含層の遺物は西側からの流れ込みと考えられる。また、調査区周辺遺跡でも同時期の竪穴住居跡が調査されており、台地上には該期の集落が存在するものと考えられる。（水谷）

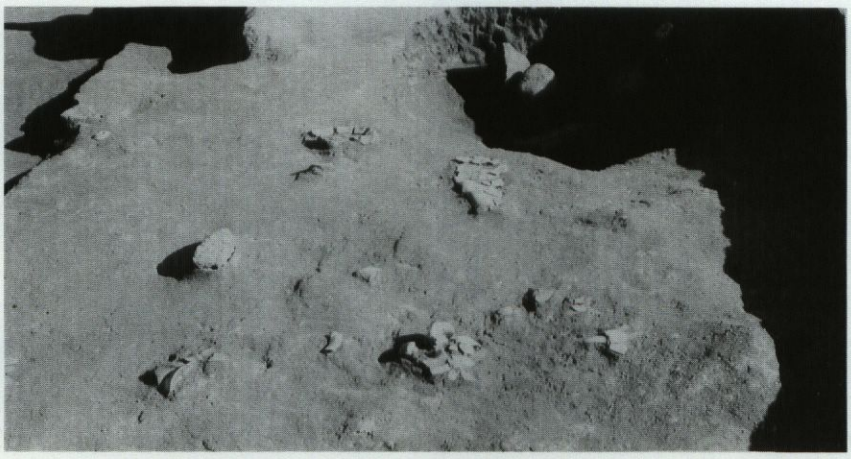
1　調査区近景

3　貯蔵穴

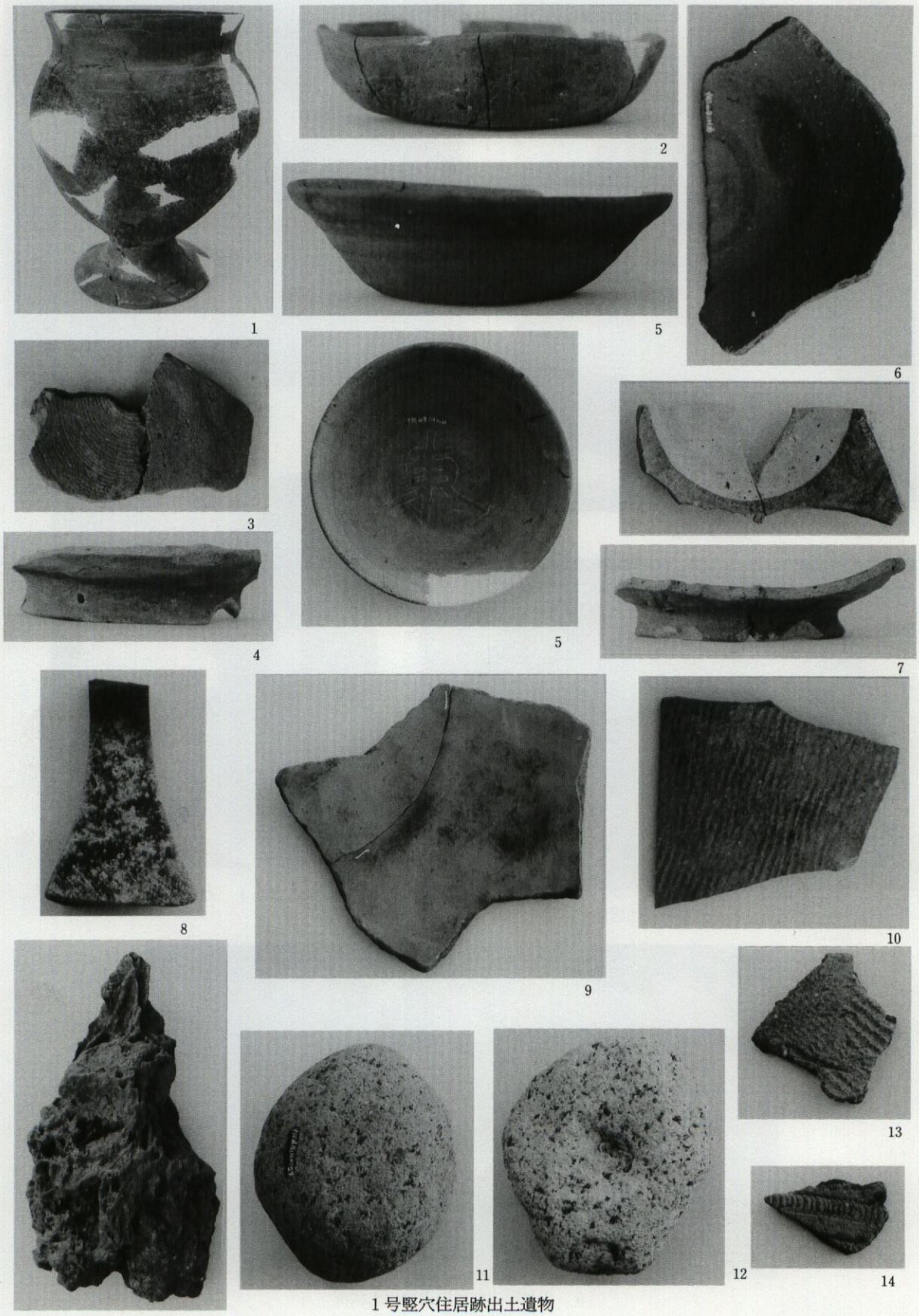
2　1号竪穴住居跡



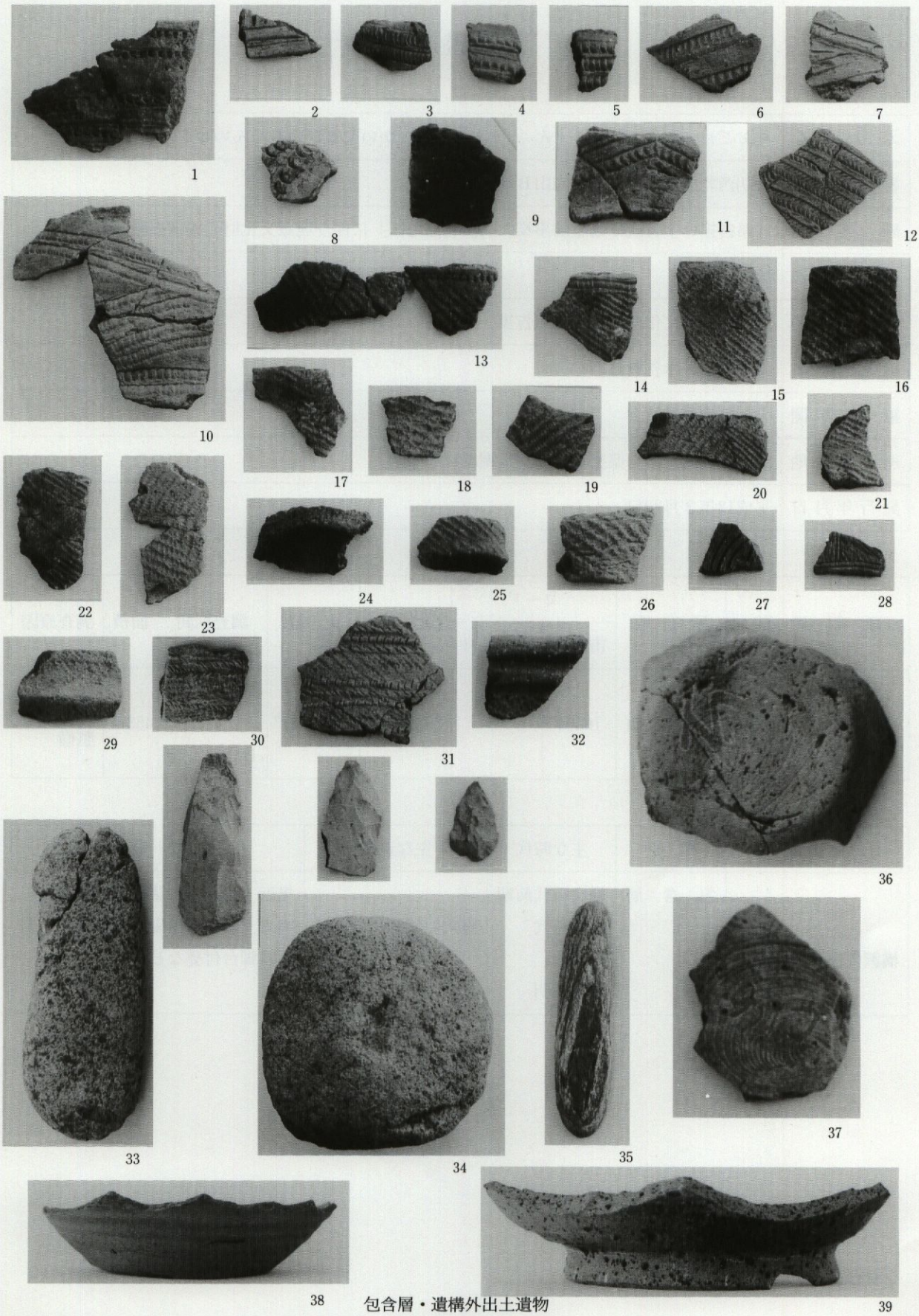
4　カマド



5　1号竪穴住居跡遺物出土状況



1号竪穴住居跡出土遺物


1
2
3
4
5
6
7
8
9
11
12
10
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
36
33
34
35
37
38
39

包含層・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおごせいほくぶいせきぐん　　よこさわむかいやまびいちてんいせき
書名	大胡西北部遺跡群　横沢向山Ｂ地点遺跡
副書名	「県営担い手育成ほ場整備事業大胡西北部地区」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第６集
シリーズ名	大胡町埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	山下歳信・水谷貴之
編集機関	大胡町教育委員会
所在地	〒371-0292　群馬県勢多郡大胡町堀越1115番地
発行年月日	平成13年３月23日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
横沢向山Ｂ地点遺跡	横沢字向山	10304		36°25′24″	139°８′43″	H12.12.２ ～ H12.12.16	453m²	県営ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
横沢向山Ｂ地点遺跡	包含層	縄文時代前期 平安時代 時期不明	竪穴住居跡　１軒 ピット　18基	黒浜・有尾式～諸磯ｂ式土器片 墨書土器、転用硯、土師器坏、土師器脚台付甕など

大胡西北部遺跡群発掘調査報告書第６集

横沢向山Ｂ地点遺跡

平成13年３月23日

編　　集　　群馬県勢多郡大胡町教育委員会
発　　行　　群馬県勢多郡大胡町教育委員会
〒371-0292
群馬県勢多郡大胡町堀越1115
☎027(283)1111
印刷製本　　朝日印刷工業株式会社